

泊船集

上





泊船集叙



黄門のあはれくは白訓詁と申す利

にやまのあはれくは白訓詁と申す利

とやまのあはれくは白訓詁と申す利

とやまのあはれくは白訓詁と申す利

とやまのあはれくは白訓詁と申す利

とやまのあはれくは白訓詁と申す利

とやまのあはれくは白訓詁と申す利

塔——うね——本朝も——一休和尚の人
 名——まほしきもの——
 毛ハ人——おあしる塔羅——カトよあや
 了乃そい——
 ませ——
 ——ま乃よあや——
 ころはらば乃道——
 有ぬ身——

歌ト歌乃よあや——
 ——
 一——
 八頼約俊頼、寄もの所あたあはるる氏
 都阿——近くハ宗符——
 其今
 跡ハ一——
 吟——

〜〜〜 西に昇舞の〜〜〜
人々同様に〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜

121

〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜

122

ややく宗鏡貞伝のついでに
 法師もほつたふと日記の
 ことすしあつたふと日記の
 人語もつたふと日記の
 ことすしあつたふと日記の
 ことすしあつたふと日記の
 ことすしあつたふと日記の
 ことすしあつたふと日記の

ことすしあつたふと日記の
 ことすしあつたふと日記の
 ことすしあつたふと日記の
 ことすしあつたふと日記の
 ことすしあつたふと日記の
 ことすしあつたふと日記の
 ことすしあつたふと日記の
 ことすしあつたふと日記の
 ことすしあつたふと日記の
 ことすしあつたふと日記の
 ことすしあつたふと日記の

乃乃紀若年一今一まぬ尚也
 子乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

風國謹識

元禄拾一
 福祿

泊船集巻之一

昔者翁道乃紀

千里一旅之入路頼を法
 三更月下費何入
 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

早月小秋八日さや乃能ついでに
しつ。程風乃能ついでにくさるる
よきやうやう

野た〜〜おのほほ〜〜
おのほほ

秋十ちよせ都みやこのしるし
かた

同越し、日さるるしるし
〜〜

軍務しゆんぶ〜〜
かた

何其千一ちよりちよもはちよりちよも
乃能ついでにたのめよついでに
くさるるは。まのまの草履
乃能ついでに交好の〜朋友ともだちの信しんあるも
其人 千一

深川ふかがわやや苗藪なほの同どう田でん士し
同どう田でん士し
のちよ。捨すて子こ乃能ついでにさるる

泣あめ川乃早瀬よかきし
浮き乃波まき乃ぐいまきま
まきまのま乃今まらるま
ま今し小麻よまの秋の風よ
ひやちまのまあままはま
と秋まの浪あまのげま

積まきまのま

あまのま

くまのま
あまのま
又まのま
母まのま
唯まのま
つまのま

大井川
秋乃日乃雨
指おん大井川

眼あ

乃乃く乃木權いさよ くまの島本

二十日餘り乃乃月くまの年次て
山乃根きまのくまの年次て
まむらまのた積く敷里のま
雞鳴やすす杜牧、早一ひれ
涉くまの小松乃は山よむて
もらまのな

馬平渡り涉る月

ちやのり

松屋や一風瀑の伊勢に有る。

とるまの信し十日さのち
と

まのくまの信し十日さのち
鳥井くまの信し十日さのち
まのくまの信し十日さのち

山家れ松凡身をすささる
姉のこころを都

みくろ月や
かきかきかき

拾あ

腰間より寸鐵を不意に襟に

一巻を巻くしよ十八の

珠を推かす僧の

塵あり俗は似て

我道にあらん
はるかにまよひの浮屠
属はまへへ
くま

西の谷の姉よは家あ
よも乃草あ

いとあな女西行
よ

おのころの國なるもしき
うたがは

さきさき

うたがは

おのころ

大和國よりわたりて

乃郡をたぐひて

おのころの國なるもしき

日わたりにおのころの國なるもしき

おのころの國なるもしき

おのころの國なるもしき

二上と當麻寺詣りて上りて松

おのころの國なるもしき

おのころの國なるもしき

おのころの國なるもしき

川たづね 幸いしきま

僧お顔まひく

福 野 乃た

深 白

相 有

東

深

中

乃た 深 白 相 有 東 深 中

僧お顔まひく

西

東

程望入...
 霧...
 系是...
 杵曲...

山...
 斜...
 鐘...
 有...

御...
 大和...
 入...
 色...

伊勢乃武つらつらつら
鳥年一つらは梅凡つらつらつら
乃つらつらつらつらつらつらつら

義朝乃つらつらつら

あまれ風

不破

秋風やつらつらつら

不破の関

大垣のつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつら

つらつらつらつら

昔一乃ま〜一復あま〜
ほ乃〜ま中〜に濱乃〜あて

あけのや
車一魚白寸

熱田海

社頭大イニ破き築世ハ〜
〜手村〜
繩〜あて小社〜
〜〜に不〜

神と名乃〜あま〜のあ
乃ま〜生〜
あ〜あも〜あり〜

志乃ぬ〜枯〜餅

名護屋入道乃程諷
吟

狂句用れ身ハ赤〜あ〜
うち

草乃〜た〜あ〜
ち

遊あそぶたまらぬかたむしし

市いちノの傘さノの傘さ

旅りノの傘さ

馬うノの傘さ

海うノの傘さ

海うノの傘さ

白しろ

海うノの傘さ

年としノの傘さ

年としノの傘さ

年としノの傘さ

年としノの傘さ

誰たれノの傘さ

年としノの傘さ

年としノの傘さ

年としノの傘さ

二月ふたつきノの傘さ

水みづノの傘さ

京に登りて三井秋風の鳴滝
乃山家もよ

梅林

梅自し咲きもよ

櫻乃木乃花

休見西山岸古ぼく上人

我衣子ぬき乃桃の雲

大津子もる乃山路
やまのまもてちのま
湖氷眺む

草一帯のまのま

晝乃休む
腰もあ

ついでに其陰子干簾
吟

草留子

水口より廿二年を經て

故令の如し

今ニツ甲午年活あり

十一年

伊豆の志野の山鳥の葉月日れ
し去年一乃秋よりひ物志るる
我名もまゝしゝも乃松乃松は
れ年一乃尾張の國まゝし跡
しゝもまゝも乃

くさこゝゝは積まゝ

此僧のなまき一曰周るんま大
顛和尙とむ月のはめは化
まゝもまゝもまゝもまゝの
せゝもまゝもまゝもまゝ其角が
く由一は

梅のさる卯の花有す

賜杜少子

白くよき花のぞき
白くよき花のぞき

二葉の桐葉子のりも
有て

今やあつまる
も

牡丹並果の
蜂のるる

甲斐乃心山
も

いへ駒乃麦は
也

卯月の末いほり
も

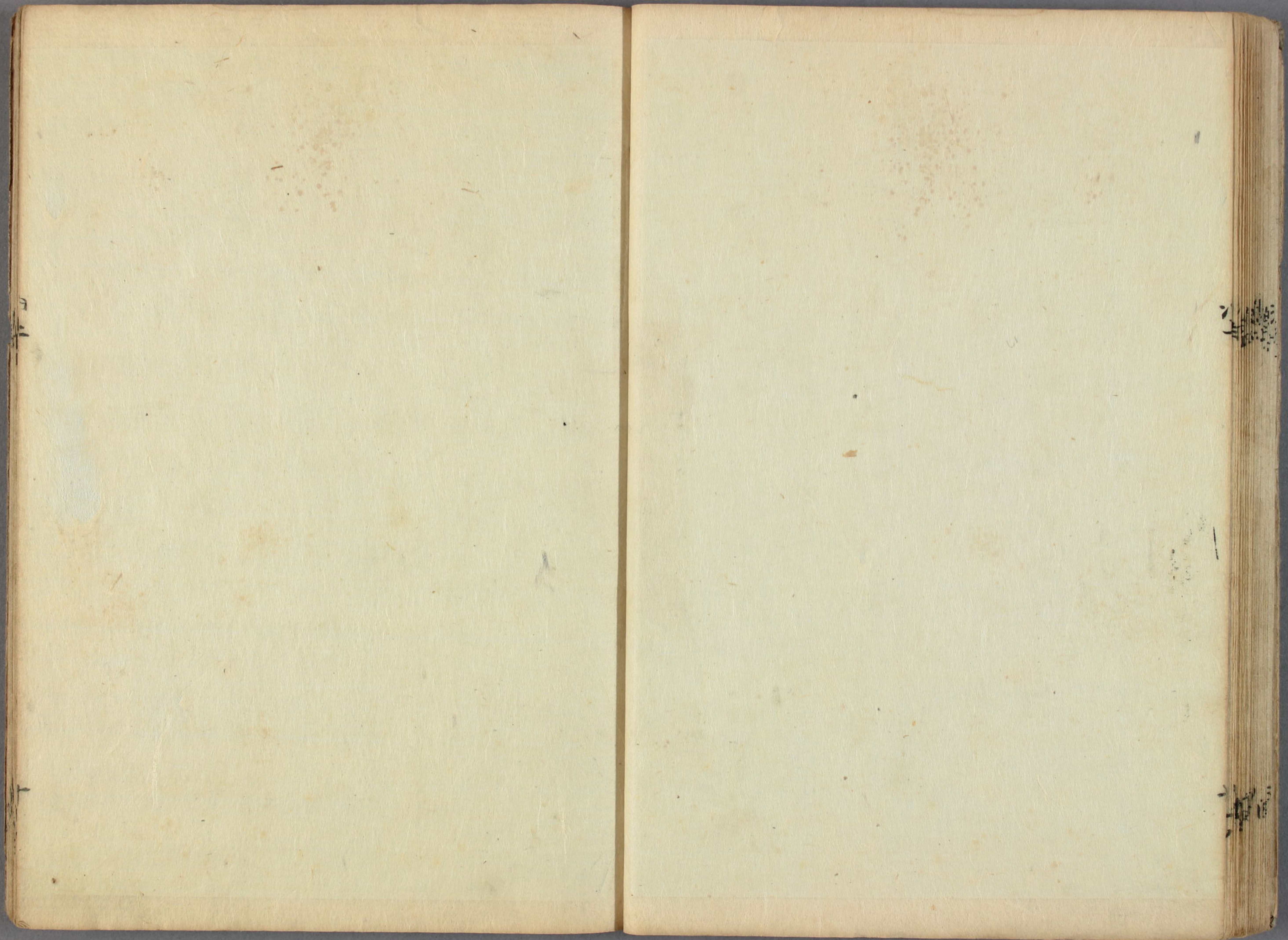
おつる
も

はく

後へよま
も

素堂乃跋
も

畧へ



年一もや新米ぬき
人してぬきもや新米ぬき
年一もや新米ぬき
新米ぬき
新米ぬき
新米ぬき

新米ぬき

新米ぬき

風まき亭

風まき亭

梅

細作民部

梅乃末る梅乃末る

山里八万果おそ梅乃末る

子良翁乃後ニ梅あり

内子良子乃つゝと梅あり

うんやうきとささ梅あり

真とやうきとささ梅あり

旅うきとささ梅あり

かきとささ梅あり

梅の香平乃つゝと日乃も

そと

そ乃女

暖 以藤乃真の沖北乃梅

いこの乃下

よああり

香平乃ほ

何某翁ハ

一因ニ父梅

一葉を移シてはるるのし
宿作もさうさうぬ録乃
程おもひやうと

梅のよき年むすむはし
あはれ也

競し列 東武行

梅若葉まきさころ宿乃とけ

門人何のくまのくま
馬りさささるゝたまひし

とらもものよふ敷乃中ちも梅のそむ

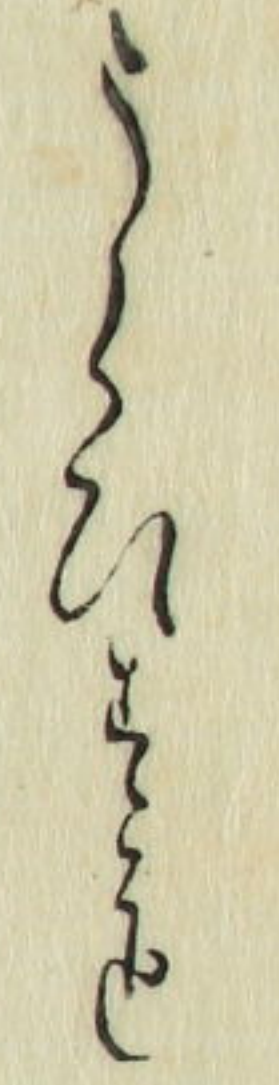
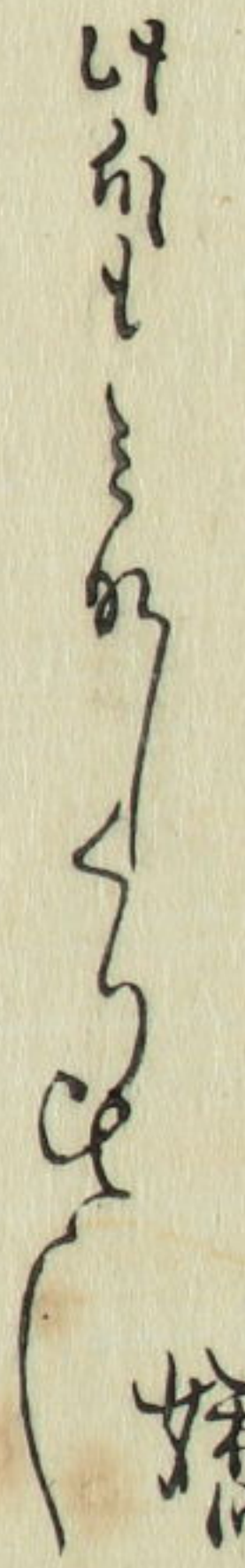
梅柳 下さ神し美風うな女うの

天初乃比乃吟しち

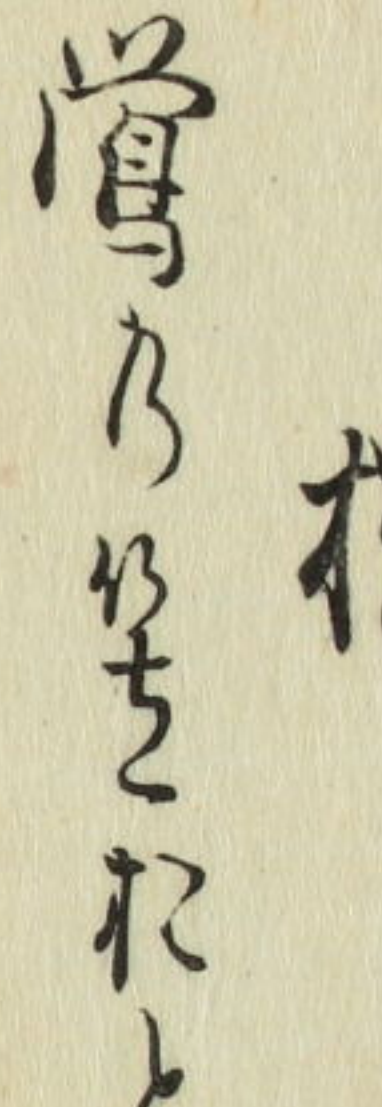
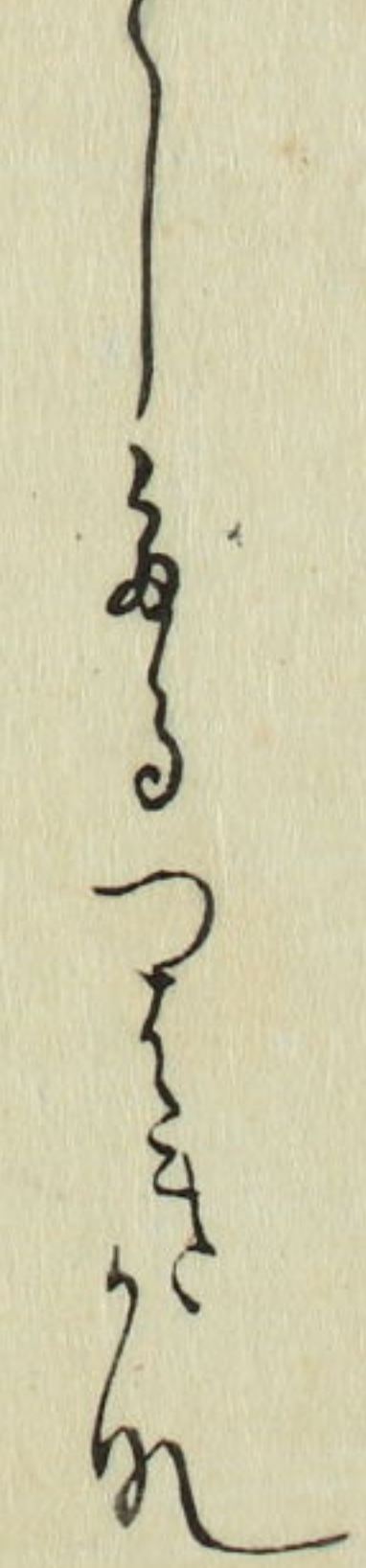
尊

しるすや餅小葉葉のし

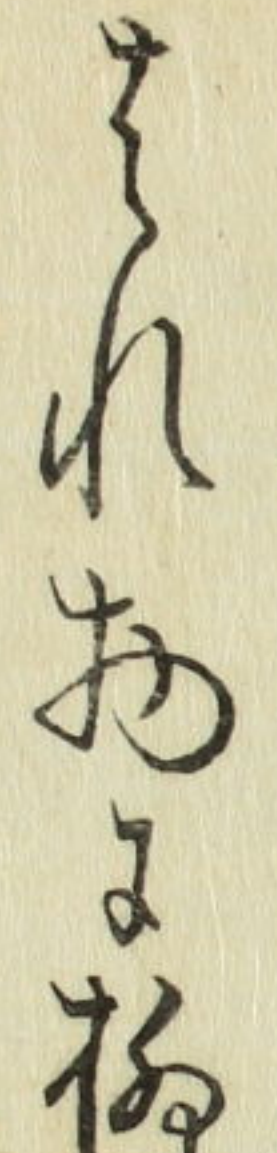
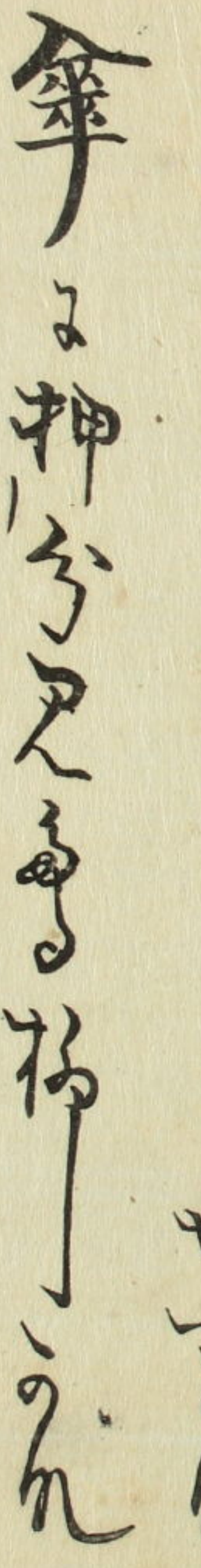
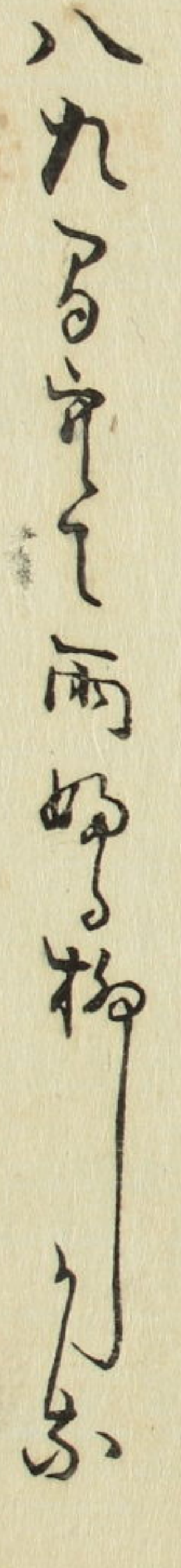
尊や柳しるるゝと


 葉のつぼみ

 葉のつぼみ
 葉のつぼみ

模


 葉のつぼみ

 葉のつぼみ

柳


 葉のつぼみ

 葉のつぼみ

 葉のつぼみ

雲雀

雲雀さうし 中ね 柏子 雀

水ぶきを 樽 ぬい

拙者 舞

小文庫

いづれ 宿 ぐら 上 へ 体 くら 下

雀

雀

又 母 雀

蛇 くの 用 へ 八 おう 雀 子の 雀

つと

さう つか たり 泥 お とも 雀

陽炎

うけろのやま胡乃糸竹薄

四

枯せのやまうけろのよ乃一三寸

伊賀新大佛之記 今畧之

文正二年 陽炎之

石乃一色

東之

不掛かをのやま胡乃糸竹薄

草のやま胡乃糸竹薄

草のやま胡乃糸竹薄

紙のやま胡乃糸竹薄

毛

まゝに都評瑠璃小歌
出た也

憂ては安知酒乃不憂

貧乏の覺は錢の神

毛の浮世我酒白く食運

右二句は延喜久未の評

大和乃七草一尾村よし

毛乃降臨の如き旅ねの

毛のりも汁もあまきもも

此句は二句は有る

いふ乃毛をよ乃ははさの

毛乃乃八重梅此料一平

附せられりといふ傳えは

一里ハ毛守乃子孫也

危きまらぬま行脚
 味山乃ゆき
 毛いさうりまし
 ぽいぽい
 ぽいぽい
 ぽいぽい
 ぽいぽい
 ぽいぽい
 ぽいぽい
 ぽいぽい

宿見多毛いさうりまし神

最中乃桃乃中
 一乃桃乃中

一乃桃乃中

花さうりまし

花さうりまし

花さうりまし

景清と花さうりまし

西行像讚

~~~~~  
雪乃好。日ハ  
おまけ

~~~~~  
あれ花乃好。

日ハ
花
これ

花乃好。鐘ハ上野。可淺草。

二月十七日 旅路乃好。

西乃好。

僧好。

裸ハ好。月ハ好。

梅乃好。

雪乃好。

花乃好。

好。

まろ乃おハ様子明し仕あがり

驍別

叶くしる推まよきよ五器一具

種サリやま乃たふもさあつり

花も吸吐ましくもなまきん

ちるまもやももあは流く琴下乃塵

こ乃白琴下大鼓下乃生下あま

繪乃賛し

翻る乃いゝのまをり

其前々曰く上野は呼

ゆえに一あ乃年乃其あ

を病起乃眺亭致自

一聯二句乃格し句と呼く句よに

宗

心も宿るも一め後乃竹目程

明日ハ橋乃ルト云ヤ谷乃ル者
其れハ云々云々
神ノト云々云々
生ノ一橋乃ル云々
あまハ云々云々
既ニ賢者乃ル此言云々云々

さしハ云々云々
あまハ云々云々

白ハ云々云々

洒落堂ハ記畧云

四方ハ云々云々

芳野ハ云々云々
乃云々云々
別乃杜云々同行
云々云々

芳野ハ云々云々
橋乃云々

酒

木

千
 毎
 一
 乃
 半
 亦
 飲
 少
 也
 極
 壯
 固
 故
 婦
 一
 一
 一
 一
 一

一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一

一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一

一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一

一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一

一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一

一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一

酒
 乃
 之
 力
 甚
 大
 一
 乃
 繪
 事

月
 乃
 之
 名
 一
 乃
 飲
 獨
 氣

三
 乃
 之
 名
 一
 乃
 繪
 事

月
 乃
 之
 名
 一
 乃
 飲
 獨
 氣

乃
 之
 名
 一
 乃
 繪
 事

乃
 之
 名
 一
 乃
 繪
 事

乃
 之
 名
 一
 乃
 繪
 事

涅槃

ねんじゆん 繪や綴し合はる珠數

乃々

しせうし

神ふやおもひし掛は涅槃像

首別

蘇乃子杖 魚屋の別れ

蛙

古池や蛙飛込水乃音

二月吉日 是橘の

剃髪 入腎門子

さむらひ小瓶の

しん

昔の想ひ

心も乃の如くしてはるる辭ほり

大和の御一乃の如く

あはれし御一乃の如く

日乃の如くはるる御一乃の如く

榮せし御一乃の如く

系即て宿し山後女藤の如く

若清水

凍解し若水に及んで氷山の如く

青柳

青柳の如くはるる御一乃の如く

草花の如くはるる御一乃の如く

其角荒雪あり

雨乃の如くはるる御一乃の如く

深川一乃草薙

あまのこころ

あまのこころはほろろ。せむ

飯乃家

梅一乃丸

あまのこころはあまのこころ。うま

あまのこころ

猫乃こころ

猫乃こころはあまのこころ。うま

あまのこころはあまのこころ。うま

蝶

蝶乃こころはあまのこころ。うま

あまのこころはあまのこころ。うま

蛭子乃替

白道や 蛭子乃替を 照は乃 佃

大なるもの 故人の別

二俣よ 別道 移るの 鹿乃 角

二思入の 圖を ぬき けり

しるしの ちや 漸く なる とも 浦は 雲

名 神 法 樂

何乃 本の 巻と とも 志し けり ぬ ぼひ ぬ

題

よ 書入 情 あり とも ぬ ぬ ぬ ぬ

おしらびや歯よ〜いあ 海苔のめ

おしらびや歯よ〜いあ 海苔のめ

入集

大比枝や〜いあ

おしらびや歯よ〜いあ

ま〜ぬ実をた〜いあ

尾細〜お捜〜いあ

お捜〜いあ

おしらびや歯よ〜いあ

おしらびや歯よ〜いあ

おしらびや歯よ〜いあ



對梅字立
藏子能書
二百精舎

Blank page with a large rectangular area of light blue-green discoloration or staining, possibly from water damage or a specific ink wash. The paper is aged and shows some wear at the top edge.

子

三

五

Blank page with faint blue ink bleed-through from the reverse side. The bleed-through appears to be a vertical column of text or a list. There are also some very faint red markings or stamps on the right side of the page.

上

四

